



「みちづくり・まちづくり通信」を 斬る！

改めて
考えよう

問題だらけの「取組方針」

皆さん、練馬区発行「みちづくり・まちづくり通信」(2025年5月)をご覧になりましたか？ 「『大泉第二中学校の教育環境保全と大泉学園駅南側地区まちづくりの取組方針』を策定しました！」というもので、大泉第二中学校通学域全域および石神井台6丁目の全域に配布されました。この取組方針は地域の生活環境を壊し、子どもたちの教育環境を著しく損なう計画です。「みち・まち通信」から見てくる区の姿勢や計画の妥当性など多くの問題点を改めて考えていきましょう。

十分な議論を尽くさず、地域の声に耳を傾けることなく、計画見直しを求める私たちと保護者の「請願」は2つとも議会で退けられ、都市計画道路135号線と232号線を計画線通りに整備し、大泉第二中学校を道路で真っ二つに分断するという取組方針が策定されました。

練馬区は請願の審査前に、取組方針(素案)の保護者説明会とオープンハウスを実施しましたが、きわめて不誠実なもので地域の理解を得たとは到底いえません。

「みちづくり・まちづくり通信」の問題点を洗い出し、実態との乖離を指摘します。

■ 取組方針(素案) 保護者説明会

アリバイ作り

みち・まち通信

令和7年1月16日(木) 19:00~20:30 大二中体育館

実態と問題点

平日の夜、小さな子どもを持つ保護者にとって一番忙しい時間帯を狙ってと言われても仕方がない設定。しかも1回だけという無責任さ。時間や日数を変えて何回も開催してほしいとの要望は聞き入れられませんでした。来場者は42人と少ない上に現役の保護者はほんの数人、年配の方が大半を占め、推進、賛成という意見はひとつもありませんでした。全保護者へアンケートをとるべきです。



保護者説明会の様子

■ 取組方針(素案) オープンハウス

住民説明会を

みち・まち通信

1月17日(金)17:00~20:00 18日(土)10:00~16:00 勤労福祉会館

実態と問題点

取組方針(素案)の内容を展示するだけ。大二中再建案は外観だけで、敷地面積、運動場面積、校舎内の構成、運動場の面積などまったく示されていません。校舎内の構成などは「これから検討」「まだその段階でない」の一点張り。質問にある程度答えるものの、一対一のやりとりで終始してしまうので地域への広がりがまったくありません。

・一般住民に向けた説明会をしつこく要請したものの聞き入れず、オープンハウスのみとなりました。

チェック

みち・まち通信では触れていませんが、区はタブレットで「こどもアンケート」を配信しています。その内容が問題。多目的スペースやICTの活用、体育館は2倍の広さ、運動場では野球やサッカーができる、プールは屋内、など良さそうなことばかり。渡り廊下一本で行き来すること、校庭が狭くなること、通学路は大型道路を横切らないといけないうこと、子どもたちにとって大切な三角公園がなくなることなど一言も触れていません。しかも、イラストの子どもに「こんな学校で勉強したい」「こんな学校にしたい」学芸大通りなどが「確かに混んでるね」などと言わせているのです。

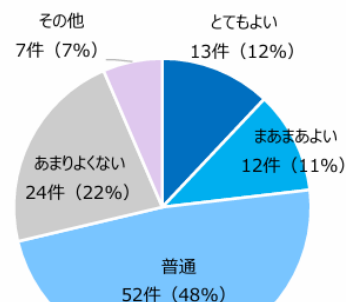
・「新しくなる大泉第二中学校についてどう思いますか」のアンケート結果は「とてもよい12%」「まあまあよい11%」「普通48%」「あまりよくない22%」「その他7%」でした。

・委員会質疑でも「『とてもよくない』の設定がないのはフェアじゃない」「校舎とグラウンドが分断されるとかデメリットも記載すべき」など、厳しい追及を受けました。

「『その他』の内容は？」の問いに対し、区は「よくわからないという、そういったもの…」としどろもどろの答弁。

・有識者委員会でも委員長から「教育環境を向上させるための方針で『普通』ではだめ。より良くしなければいけない」と言われています。

新しくなる大泉第二中学校についてどう思いますか(計108件)



■当地区の現状と課題

本当に必要なものは

みち・まち通信

当地区では、生活道路に通過交通が流入し、歩行者や自転車の安全確保が課題。また、大泉第二中学校は老朽化が進んでいる。こうした課題を抜本的に解決するためには、都市計画道路の整備と教育環境の保全をしつつ当地区のまちづくりを進めていく必要がある。

実態と問題点

「生活道路に通過交通が流入」は都市計画道路整備の理由付けに利用される常套句ですが、裏付けとなるデータが示されていません。「歩行者や自転車の安全確保」は喫緊の課題ですが、135号線・232号線を通して学芸大通りの歩道は狭いまま、ロードふじみの歩行者と自転車が目に見えて減るわけではありません。学芸大通りの拡幅整備を始めとする既存道路の整備を進めることで、解決すべきです。

・あたかも大二中の老朽化のための教育環境保全であるかのように読み取れます。練馬区の学校施設は半数以上が築50年を超え老朽化が進んでいるため、区は築年数だけでなく目標使用年数80年とする長寿命化の適否を判断しており、大二中は長寿命化「適」とされています。

・教育環境保全が問題となっているのは、老朽化のためではなく都市計画道路を学校敷地内に無理やり通そうとするからです。

チェック

練馬区は学芸大通りの交通混雑と渋滞をいうが、都市計画道路整備に当たっては当該地域の交通量の把握が欠かせません。区はこれまで135号線・232号線整備計画に当たって2003年から数年おきに交通量調査をし、発表してきました。しかし、2019年の調査を最後にぴたりとやめてしまったのです。同年の調査で交通量の減少が顕著であったためか、西武鉄道の人身事故を理由に参考値にとどめました。以来、区議会や私たちの実施要請をかたくなに拒み続けています。議会での議論の中で区は「交通量調査を待つまでもなく」と答弁する始末です。

「ならば」と私たちは独自に調査をしました。

(4ページをご覧ください)

■ 取組方針の構成

教育環境の本質は

(1) 大泉第二中学校の教育環境の保全等

みち・まち通信

①大泉第二中学校 これまでの教育環境や学校の伝統を守りつつ、子どもたちの学校生活に支障がないよう、望ましい教育施設機能の実現に取り組む。
周辺敷地の一部を取得し、現中学校敷地を含めた土地を活用して学校を再建する。

実態と問題点

「子どもたちの学校生活に支障がないよう」というが支障は大あります。校舎と運動場や体育館に行く渡り廊下の説明がありません。第二運動場とする南側用地までの距離、移動方法、移動経路の記述也没有ありません。分断された校舎と運動場、第二運動場での安全確保策への言及也没有ありません。運動場は200mトラックが配置できるとしていますが、植栽などを考えると取れるかどうか甚だ疑問です。体育祭では生徒の観覧席、保護者席などを設けると200mトラックはできません。サッカーコートや野球グラウンドも公式の基準を満たしません。

・「望ましい教育施設機能の実現」だけが教育環境ではありません。校舎と校庭を大型道路で真っ二つに分断された中で学校生活を送らなければならない子どもたちの健康、安全を置き去りにして、教育環境保全を語ることはできません。

「周辺敷地の一部を取得し学校を再建」とありますが、取得できなかつたらどうするのでしょうか。

・「取組方針」は外観図を示すのみで校舎の内部構成や面積などが示されていないため、有識者委員会で「少しでも新しい学校のことをイメージできるように数値的なものを記載する方がわかりやすい」と指摘されたにもかかわらず、反映していません。



みち・まち通信

②大泉南小学校 都市計画道路の整備に合わせて、すでに取得している用地等を活用し、校地の整形化を図る。

実態と問題点

一部民地を新たに取得する計画なのに、地域に何の説明もなく、削られるプールや遊具をどうするかも不明です。



図 都市計画道路整備後の小学校敷地

(2) 都市計画道路の整備と大泉学園駅南側地区のまちづくりの推進

みち・まち通信

①都市計画道路の整備 緑のネットワーク形成、生活道路への通過交通流入の減少、歩道と車道の分離、延焼遮断帯の形成、無電柱化 等

実態と問題点

公園や落ち着いた住宅街の豊かな緑をつぶす道路の街路樹による「緑のネットワーク」は本物の緑とは言えません。こうして練馬区の緑がどんどん失われていきます。

・「延焼遮断帯」は焼け止まりを目指すもので効果は限定的、風向きで延焼促進帯にもなります。初期消火や火災を起こさないための取り組み（消火栓、空地、感震ブレーカーなど）が重要です。

みち・まち通信

②地域のまちづくりの推進 都市計画道路沿道にふさわしいまち並みの誘導や延焼遮断帯の形成による防災性の向上、みどり豊かで良好な住環境を保全創出
まちづくり協議会を立ち上げ、まちの将来像などについて地域住民等とともに検討

実態と問題点

地域住民との合意形成が最重要。「みどり豊かで良好な住環境の保全創出」は大規模道路を前提としないまちづくりです。

■今後の進め方

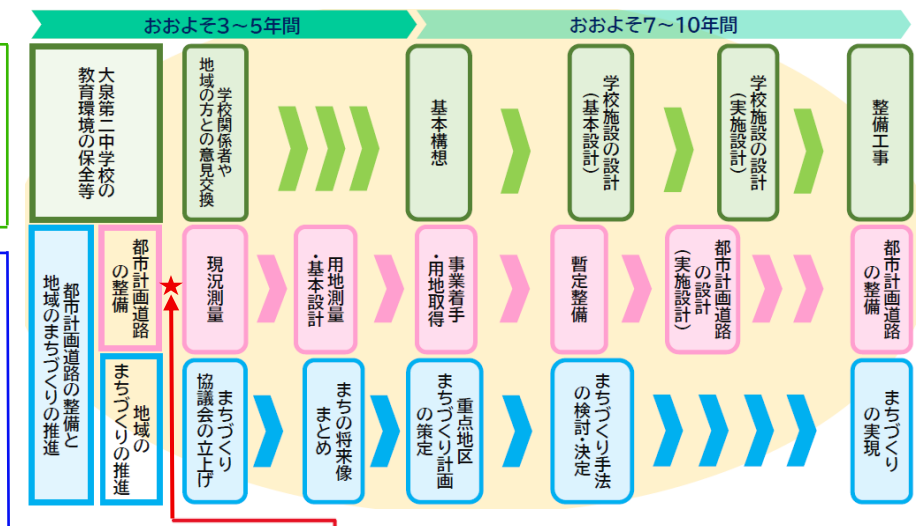
みち・まち通信

- ・上段 大二中の行程
- ・中段 都市計画道路の行程
- ・下段 まちづくりの行程

実態と問題点

事業期間は10年から15年。
道路整備が先行し、学校再建とまちづくりはその後追いになります。道路が暫定整備される時点で大二中はやっと基本設計。

- ・事業化のためには測量が必要ですが、それに先立って**説明会**が開かれると予想されます。
- ・練馬区は取組方針を強引に決めましたが、地域の合意は全くありません。このまま事業に入ることは認められません。



道路はまだ止められます

■交通量調査

減少傾向鮮明に

独自の交通量調査

2025年5月 学芸大通り 2003年比較 -29.51%

歴年の調査	2003年	2008年	2010年	2013年	2014年	2019年	2025年		
	7,263	7,392	7,268	6,826	6,426	5,771	5,120		
前回調査からの増減率		1.78%	-1.68%	-6.08%	-5.86%	-10.19%	-11.28%	2003年から	-29.51%
前回調査からの経過年数		5年	2年	3年	1年	5年	6年	の増減率	22年

8,000
7,000
6,000
5,000



2003年～2019年 練馬区調査
2025年 大二中を分断する道路計画を考える会調査